

### 第3回大野市社会教育委員の会議 会議録

日時：令和5年3月29日（水）19時～20時20分

場所：学びの里「めいりん」1階 コンピュータ室

出席者 委員9名、事務局2名

#### 1 開会あいさつ（委員長）

大野市の明るいニュースがいくつもある。中部縦貫道が勝原まで開通し、荒島岳が立体的に見えて感動的だった。今年の秋には和泉まで開通するので非常に楽しみである。また、大野市から世界のキャッチャーが生まれた。WBCに中村選手が出ていたのは皆さんご覧になったことだと思う。新年度が始まるが、市がこれからも飛躍していくように我々も頑張っていきたいのでよろしくお願しいたい。

#### 2 議題

##### （1）令和4年度生涯学習事業実績について 資料No.1

1 ページは、生涯学習グループで実施した事業の実績となる。

2 ページは、公民館に予算を配当して実施した講座の一覧である。当初計画していたが未実施のものを黒、当初計画して実施したものを青、当初に計画していなかったが新たに企画して実施したものを赤で表示している。「健康」と「デジタル、ニューノーマル、IT」の分野で青字と赤字が多い。「料理、食育」の分野で黒字が多いのは、コロナの第7派、8派の影響で料理系の講座が実施できなかったことによる。また、「地域づくり、地域課題解決」の分野でもコロナによりバスを利用した視察研修ができなかった。「その他」ではどの館も新たに企画した講座が多いことが見える。ただ、どの資料も3月分の実績が一部しか入っていないのでご了承願いたい。

3 ページは、公民館で実施した講座の回数と参加者数の集計である。令和4年度は990回で11,672人の参加があった。参考に元年度は713回で25,764人、2年度は859回で9,462人、3年度は918回で9,929人であり、コロナの影響で参加者は元年度の半分以下になっているが、じわじわと回復してきている。

4 ページは、生涯学習推進計画の成果指標における実績である。第六次総合計画と同じ成果指標としており、「18歳以下の子ども1人当たりの生涯学習事業参加回数」は、令和4年度の目標に対して0.88回となっている。生涯学習関係の指標として教育方針の成果指標に「市民1人当たりの生涯学習事業参加回数」とあるが、それは令和4年度の目標0.85回に対して0.62回となっている。

##### （質疑応答）

委員：公民館で講座を実施すると反省点が出てくると思うが、同じ人ばかりが参加するとか、内容についてとか、地域独特の課題が出るのではないかと思うが、その課題について話し合いや情報共有することはないのか。

事務局：公民館には主事会や公民館長会があるので話し合う場がある。場合に応じて生涯学習・文化財保護課に「こんな問題がある」と連絡がある。しかしながら、生涯学習・文化財保護課の職員が各公民館に赴いて、課題を聞き取ることまではしていない。

委員：以前、公民館の職員に社会教育委員の会議に来てもらって話を聞いたことがある。今後も現場でどのように工夫をしているのか生の声を聞きたいと思う。公民館同士は話をするかもしれないが、我々も聞きたい。公民館とつながりたいという思いもある。

事務局：2、3年前に公民館の職員にこの会議に来てもらって研修形で意見交換をしたことはあった。

委員長：次年度、現場の声を聞くような場があってもいいと思われる。公民館の概要の説明ではなく、力を入れているところや課題などをざっくばらんに話していただけたらよい。

委員：来ていただける公民館の職員でいいので、全館に声掛けしてもらえたらと思う。

事務局：地域文化課と調整する。

## (2) 令和5年度生涯学習事業について 資料No.2

1ページは、いきいきわくわく学習事業の講座計画として予算要求用に使用した資料で、主なものを挙げてある。令和4年度の計画と比べて令和5年度で強化・新設する講座を示している。生涯学習・文化財保護課において、新たにリモート講座や中高生対象国際交流講座、公民館連携オンライン講座など計画した。先ほどの公民館講座の一覧でも分かるように、講座は見直しながら企画しているので、これからも社会教育委員の意見を適宜反映していく。

次のページが令和4年11月に市公式LINE登録者に対して実施した生涯学習アンケートの結果である。これまで講座受講者に実施していたアンケートでは、受講したい講座の分野を聞いていただけだったので、具体的な講座名を聞いている。これにより講座担当者は、より具体的に講座を企画できる。

また「多くの方が講座や研修に参加するようになるためにはどのようなことが必要か」とも聞いており、さまざまな意見をいただいている。講座担当者は、アンケートや各地区の要望をもとに講座の見直しや工夫を繰り返し、より良い講座にしていくこととしている。

### (質疑応答)

委員：No.65に「若手が企画する。大学生とコラボ。」という意見があるが、これは若い方と何かしたいということか。

事務局：若者が興味を持つような企画をお願いしたいということだと思われる。

事務局：時間帯に参加しやすい時間にしてほしいという意見が多くある。

委員：高齢になると、運転が危ないため夜の講座に参加するのも難しいと感じる。アンケートはスマホで回答している人ばかりだと思うが、その人たちでも情報収集を「広報おの、公民館報」と答えている方が1番多い。やはり市報はとても大事なものである。

委員長：99番に「年齢制限をしている講座もあり参加できない」と書かれているが、年齢制限をしている講座はあるのか。

委員：キャリア講座で年齢制限を設けていたと思う。

事務局：年齢制限している講座は把握していない。

委員：この資料はいいヒントになっていると思う。市民がこういうのを求めていると分かるので公民館の方はこうやってみようと考えられる。以前、市報に地区で開催される講座が載らなくなった。ページ数の関係や別の記事で充実したというのものもあるのかもしれないが、公民館講座が市報に載らなくなったのは、市民の皆さんの講座離れにつながっているのではないかと思う。

委員：地区の公民館報は丁寧に書かれているので分かるが、他の地区の内容までは分からない。このアンケートの結果は公民館の職員に見せているのか。

事務局：アンケート結果は全公民館に情報共有している。参考にいきいきわくわく学習事業の予算をお示しすると、令和4年度は14,073千円、令和5年度は14,000千円としている。約2,000千円を講座参加者の負担金として残りを一般財源としている。歳出の主なもの会計年度任用職員の雇用で2,000千円超、講師の謝礼で4,925千円である。講座消耗品として1,987千円、研修用のバス借り上げ料として約3,000千円を計上している。

委員：バス借り上げ料とはどういったことに使うのか。

事務局：女性研修や、高齢者研修、地域づくりなど公民館で実施している研修のバス借り上げ料や、生涯学習・文化財保護課で実施しているふるさと芸能発表会の子どもたちの送迎バス借り上げ料である。

委員：LINEアンケートをもとに令和5年度の計画を立てているということで、講座計画の中段から下段に掛けてIT関係の講座が多いと感じる。こういった講座が多いと、ハードルができてしまう人もいる。皆がパソコンやスマホを使いこなしている人ではない。パソコンやスマホを使えるということが前提の講座になっていないか。

事務局：補足すると、講座計画に反映したものとして、講座受講者やイベント参加者に紙で回答してもらったり、市内の事業所向けに回答してもらったりしたアンケートの結果も含めている。講座計画の職業訓練・学び直し講座は、事業所の回答をもとに企画している。LINEのアンケートだけを基に計画しているものではない。他のアンケートを含めるとともに、過去の受講者の傾向を見て残したり見直したり、強化したりという形で計画している。

委員：市のホームページを見て、各公民館の館報が更新されたら確認することになっている。他の地区で何をしているのか興味があるため見ている。

委員：スマホから市のホームページに入って公民館報が見られるのか。

事務局：スマホで大野市を検索してホームページに入ると見ることができる。

### (3) 第54回東海北陸社会教育研究大会福井大会について 資料No.3

令和5年10月12日(木)から13日(金)に掛けて東海北陸の福井大会が7年ぶりに開催されるので参加願いたい。会場は福井県生活学習館なので、大野市から参加される委員は公用車で送迎する。現在、開催方法は、オンラインを利用せず会場参加のみとすることで進められている。大野市の役割として、12日は会場案内や弁当配布などの大会運営の手伝いがあり、13日は分科会への参加となる。分科会において大野市は、司会も話題提供も記録も当たっておらず、分科会で意見交換することになる。県事務局からは、全社会教育委員で大会を成功させたいとの

熱い発言があったので大会運営に協力願いたい。これから実行委員会が何度か開催されて、内容が固まっていく。

#### (4) その他

- ・大野市連合ふわわ女性の会及び新しいまちづくり運動推進協議会連絡会の解散に係る委員の任務終了について

両会が令和5年3月31日をもって解散することとなった。委員を委嘱していた2名の推薦母体が解散となるため、その任務が同日で終了となる。大野市連合ふわわ女性の会は、総会で解散が決定している。新しいまちづくり運動推進協議会連絡会は、書面にて決議を取っており3月末での解散を予定している。よって2名減となる。7名のままとするか、新たな団体を探して補充するかは今後検討していかなければならない。

### 3 閉会あいさつ（副委員長）

大野市連合ふわわ女性の会が解散する話が出てから、自分としてはこれが最後の一年だと思って務めてきた。社会教育委員というものを知らない方が多いと思われるが、いろいろなところで関わっているということをたくさんの人に分かっていただきたいという思いがある。社会教育は幅広く、やることが多い。自分はいろいろな面で世間が広がった。令和5年度は福井大会もあることから、社会教育委員の皆様においては、大野市の社会教育というものが盛り上がるように努めていただきたい。